

解説「現地調査実施結果について」

北海道立総合研究機構 北海道地質研究所 高橋資源環境部長

皆さんこんにちは、地質研究所の高橋です。今日はデナジー(株)がやられた調査のご報告ということでこちらに呼ばれたのですけれども、まず調査結果に対するコメントの前にお話したいのですが、現在、全道各地で地熱の話があって、調査も進んでいる町もあります。

私が今、八雲町に持っている印象としましては、非常に慎重かつ、住民の方々と企業を含めて丁寧にやられているなという印象があります。地熱開発を進めるにあたっては、町がある程度、調整機能をしっかり果たして、住民の皆さんと情報共有をしながら、三者が情報共有をし、資料やデータを公表しながら慎重に進めるということを国は求めています。

そういう面から言いますと、7月1日の事前の調査の地元の説明会を始め、今日は実際にこんなことをやりました、と。次はその解析を踏まえてやるとかやらないのかということ、次の機会に説明する場があるのかどうか、そういった観点で説明会が開催されたと思います。ただ今回の報告はこういうことをやりましたというだけの結果で、皆さんにお配りした資料の中には具体的にやられた結果としては、いわゆる水質はデータとして出てきていますけれども、まだそれ以外のデータについては、解析中ということで2月末を目途に作られるということでございますので、私の方から特段、コメントすることはございません。

ただ、これから2月末に向けて、出てくるであろうという資料の調査とか、冒頭資料2ページ目にあります、それぞれ1から5の調査の結果が、2月の段階で皆さんにデータを示されて、それで企業として、あるいは町としてそういった調査についてやる・やらないというものを判断する材料が皆さんに示されるのではないかなと思っています。

先ほど、デナジー(株)からも説明がありましたけれども、この中で非常にキーになるのは、地下深いところの話を解析しなければなりませんので、1から3までの調査というのは非常に重要になります。それで、こういった調査の解析をしまして、23ページの1番最後にありますけれども、実際には解析をして地下がこんなイメージになっているのではないかということ、多分皆様にデータをお示しして、それに基づいてこの場所でこういった方向で、こういう深度で掘りたいというようなことが、次の説明会で、もし良い解析結果が得られれば、出てくるのではないかと思います。

23ページにありますように、こういった形で地下の状況をイメージしたものを資料として作らなければ、何を根拠に掘るのかということは示せないわけですから、こういった資料が次の機会に出てきて、皆さんに示されて、前に進めばいいなというように私も期待しているところであります。

こうしたことから、今回のデータについて、詳細に私のほうから特に解説する部分はございませんので、私としては次回説明会があることを期待して、私の説明といたします。